［資料・報告］

学生と教員が学び鍛えあう保健学教育

～専門性を理解しあいインタラクティブに学び鍛えあう保健学教育～

平野茂樹，村松芳幸，坂本　信，藤原直士，定方美恵子，齋藤君枝，
住吉智子，山崎芳裕，富山智香子，伊藤　斎，佐々木孝一，蒲生　実

新潟大学医学部保健学科

要旨

平成 22 年度新潟大学組織的教育プログラム（新潟大学 GP）に医学部保健学科の取組「学生と教員が学び鍛えあう保健学教育」が採択された。医療を支える使命感と能力をもち，チーム医療に対応できる人材の育成をめざす２つの授業プロジェクト「My confident lecture （腕によりをかけた授業）」および「Our project study（私たちのプロジェクト学習）」をカリキュラムに位置付けようとするものである。平成 22 年度はこれらの授業プロジェクトを具体化する作業を行い, My confident lecture を科目名「保健学総合」として平成 23 年度から，また，Our project study を科目名「保健学総合演習」として平成 24 年度から開講する道筋を示した。その活動内容について，取組を推進する体制を含めて紹介する。

キーワード：新潟大学 GP，保健学教育，チーム医療，少人数教育

1. はじめに

新潟大学医学部保健学科は看護学，放射線技術科学，検査技術科学の３専攻からなり，保健医療の分野における指導的役割のできる人材，地域医療に貢献できる人材，国際的に活躍できる人材，研究･教育に寄与できる人材の育成という教育理念の下，優れた医療人を育成することを教育目標としている。

本学科では専門医療職者に必要な知識と基本技術の修得する科目体系を基盤とし，さらに，保健学学士としての能力を身につけさせる教育カリキュラムの構築を進めてきた。例えば，自ら課題を探求し論理的に考える技法，現状を改善し粘り強く仕事を進める力，正確な知識に基づく的確な情報処理能力，他者への共感や異文化を理解できるコミュニケーション力を育むことなどであるが，それらに加えて，医療行為における適切な判断力，決断力，行動力などを身につけることも重要と考えられる。単に，医療技術の修得ではなく，医療を支える使命感と状況に応じてその能力を発揮できる人材の育成であり，とりわけ，チーム医療の重要性が強調される中で，関連する他領域の専門性を理解しあうことを取り入れた教育プログラムの充実が求められている。この取組は，その具体化の第一歩として，カリキュラムに総合的に保健学を学ぶ新たな授業を組み入れ，保健学への動機づけと実践的課題探求力を育もうとする組織的教育プログラム構築のための活動である。

2. 取組の目的，目標と実施計画

2.1. 取組の目的

医療専門職者に要求される判断力，決断力，行動力は，座学だけでは培われない。専門性の高い知識の上に，人間と人間の関わりの中から学ぶことが必要であり，この取組では，医療専門職者の学び合い，すなわち，看護の技術と病因・病態解析の技術について，その意義と必要性を互いに学び合う教育プログラムを充実することを目的とした。看護の技術とはケアの技術とマインド，医療専門職としての指揮力，安心を与え

る力，非言語コミュニケーションであり，病因・病態解析の技術とは医学・自然科学の基礎力，医療技術・医療機器の理論や原理への理解と応用力である。これら，異なる専門領域について学生と教員が，ともに，共通の課題について学びあう授業をつくり上げようとする試みである。

2.2. 取組の目標

この取組の目標は，保健学の異なる専門分野を学ぶ学生が互いの専門性を理解し，共に学び合うために２つの授業プロジェクトを実践し，具体化することである。看護技術，診療放射線技術，臨床検査技術というコメディカルの専門領域を超えて学生と教員がともに学び合う中で，学生は，医療における異なる専門の視点の違いを認識し，その意義を相互に理解するとともに，先輩から後輩へ「学ぶ技法」を伝えることでチームとしての繋がりを体感する。このような，医療職としての技術の上にコミュニケーション力，判断力，決断力，行動力を鍛える授業プロジェクトの実践により，優れた専門医療職者への人づくりを目標とする。同時に，教員が自らの専門性にこだわらず，「幅広い学び」の指導を行う中で教育力を磨き，学生とともに向上していくこともこの取組の目標である。

2.3. 取組の実施計画

取組の主要な計画は，上記の目標を達成するため，以下の２つの授業プロジェクト「My confident lecture（腕によりをかけた授業）」および「Our project study（私たちのプロジェクト学習）」を実施することである。

2.3.1. My confident lecture（腕によりをかけた授業）

学生が主専攻プログラムで各専門分野を学習するのに対し，保健学の諸テーマについて，同じ分野はもちろん，他の専門分野教員からも講義を受けることで，専門性による視点の違いを理解し，幅広く保健学を学ぶことができる授業を開講することとした。

具体的には，保健学科 1 年次生を対象に，第２セメスタにおいて「保健学総合」（選択・2 単位）（ただし，24 年度以降の必修化をめざす）を開講する。授業は，シラバスに提示されたテーマについて複数の教員の参加によるフォーラム形式とし，それぞれの教員が独自の観点から「腕によりをかけて」講義を行う。そして，授業のテーマについて教員同士や教員と学生のディスカションを通してテーマについての理解を深める。授業の進め方などは教員の裁量に委ねるが，担当教員は事前に授業概要を Web 上から閲覧できるようにする。また，保健学科以外の学生や教員，社会人が聴講できるよう広く開放する。

成績評価については，各授業の理解度確認テストおよび小論文によって成績判定を行う。また，授業ごとに学生授業アンケートを行い，授業評価に利用する。担当講師からは講義資料の提出を受け，セメスタ終了後に講義資料とアンケート調査結果を取りまとめて冊子を作成し，教員の自己点検に活用する。公開授業であることから授業を聴講した教員からも意見を求め，授業方法の改善に利用することとしている。

2.3.2. Our project study（私たちのプロジェクト学習）

この授業は，「保健学総合演習」（選択・1 単位）として開講する課題探求型の少人数授業科目で，複数の専攻の 2 年次と 3 年次の学生から構成される小人数グループで実施する。この「保健学総合演習」では，看護学，放射線技術科学，検査技術科学の異なる専門分野を学ぶ学生や他学年の学生と同じテーマを学び合う。実践・演習の中で，近い将来に医療の中で連携しなければならない異なる専門分野（他職種）の考え方，視点の違いを理解する。また，3 年次生は 2 年次生をリードする先輩としての指導性が求められる。先輩と後輩の繋がりを知り，課題探求力と自立かつ協調した問題解決能力，対応力を身につける。

平成 24 年度の開講では，後述する４テーマについて実施する計画であり，学生はその中の 1 テーマを選択して履修する。

テーマごとに，テーマを企画した教員を中心として保健学科３専攻からの複数教員による指導体制を構築する。学生は 2 年次および 3 年次生の 10 人ほどでチーム編成し，自分たちでリーダーや役割分担を決める。学習チームは，テーマについて理解を深め，課題解決のための学習計画を立案する。文献調査，ワークショップ，フィールドワークなどの実践を通して，また，医療教育用シミュレータを用いた模擬体験やチーム内での議論を通じて課題解決のための方法を探り，学習したことを取りまとめて発表する。教員は全体的な把握をしながら学生の自律性を見守り，大学院生 TA とともに学習の各段階において適切なアドバイスを与えて学習を支える。

学生の成績評価は，取組への参加，貢献度，データ解析力，発表力等に基づいて数量評価する。また，学生はポートフォリオにより自己の達成度を確認する。プロジェクト学習の内容と提言は文書化して電子データおよび冊子として保存するとともに成果発表会で発表する。この発表会の中で，グループ同士の相互評価，

教員等による評価を行い，優れた発表については，学科ホームページに掲載して広く社会に発信する。

2.4. 教育課程における位置付け

この取組において実施する２つの授業プロジェクトは，保健学科の各専攻の主専攻プログラムに加えて，１～３年次，すなわち，第２セメスタから第６セメスタにおいて実施する。初年次に実施する「保健学総合（My confident lecture）」は，保健医療に対する専門教育への動機づけと意識を高めること，そこから得た知識をさらに自分の課題として深めることで，「保健学総合演習（Our project study）」へと展開していく。「Our project study」では主専攻プログラムで得た知識や技術を応用し，保健医療に関わる具体的な課題を探求し，解決に向けた努力をする中で学ぶ喜びを見出すことで４年次の卒業研究や臨地実習へと発展させていくよう取組プログラムを設計している。（図１）

3. 平成 22 年度の実施状況

3.1. 取組の具体化

この取組の２つの授業プロジェクトのうち，「My confident lecture」（保健学総合）は平成 23 年度から開講することとし，開講計画が学務情報システムに上に公開されている。この科目の区分については，保健学科学生だけでなく広く公開するという方針であること，また，看護師養成および診療放射線技師養成の指定規則との調整が必要であることを考慮して，Ｇ－コード科目（教養教育に資する科目）として開講することとした。平成 24 年度から開講予定の「Our project study」（保健学総合演習）のテーマと主に企画する教員を既に選定し，平成 23 年度にプログラムの試行を行う準備を進めている。科目の区分については現在検討中である。

3.1.1. My confident lecture の開講

「My confident Lecture」は科目名「保健学総合」として，フォーラム形式の学生参加型授業として実施される。これまでにコーディネーターおよび講師となる分担教員が選定され，以下に示すような授業のテーマが選定され，講義概要が学務情報システムに掲載されている。

①保健学における医学の位置づけと専門性
②保健学における看護学の位置づけと専門性
③保健学における放射線技術科学の位置づけと専門性
④保健学における検査技術科学の位置づけと専門性
⑤チーム医療と保健学
⑥国際医療活動と保健学(1)－アジアの国際保健活動－
⑦国際医療活動と保健学(2)－欧米の保健医療－
⑧地域医療活動と保健学
⑨心と体の健康と保健学
⑩保健学と倫理
⑪性差と保健学
⑫医療事故・医療過誤と保健学
⑬がん医療最前線と保健学
⑭バイオメディカルテクノロジーと保健学

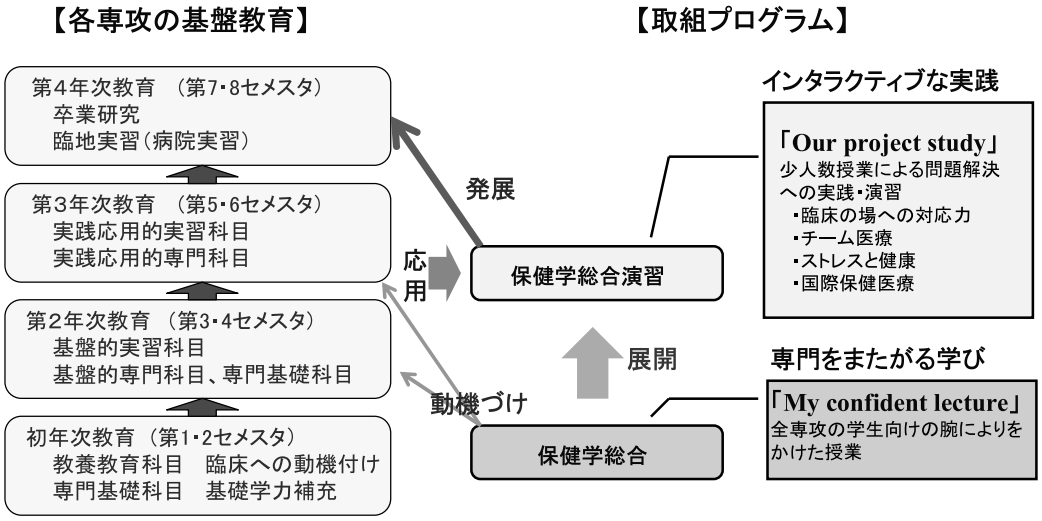

図１．保健学科カリキュラムにおける２つの授業プロジェクトの位置づけ

また，学務情報システムに示す授業概要のほか，個々の授業テーマについて，講義資料とともに，授業方針や学習方法を指導する授業ガイドを作成し，教育効果を高める工夫を行うこととしている。

3.1.2. Our project study の開講準備

「Our project study」は科目名「保健学総合演習」として平成24年度からの開講を予定し，開講のテーマは決定しており，それぞれのテーマを主に企画する教員を既に選定した。平成23年度にはそれぞれの授業を協力して行う教員を選定して指導教員チームを編成する。また，テーマに関連する施設（例えば，国立育成医療研究センター等）の見学，国際交流を進めるスリランカ・ペラデニア大学保健学科教員との情報交換，授業に関連する資料や器材の整備等を行い，シラバス作成や模擬授業を行う準備を進めている。以下に，これまでに選定したテーマと授業のねらいを示す。

①テーマＡ：チーム医療

チーム医療に携わる医療専門職者の他分野の専門職者の技術に関する理解不足がもたらす問題点を知り，改善するための方策を学び合う。具体的には，医師，看護師，その他医療スタッフの数が多くない小規模医療施設を例に，スタッフの連携が患者の予後を左右することを学ぶ。救急患者の来院からの対応の流れを看護師，臨床検査技師，診療放射線技師が把握し，それぞれの実務を演習することで，迅速，正確，的確な判断を養うとともに，コメディカルの協力体制のあり方を考える。小規模医療施設での救急患者に対するチーム医療の実際を学び，協調して医療を行う素地を養う。

②テーマＢ：国際保健医療

保健医療における国際的な視点を育むため，発展途上国を主題とする医療保健と生活体系の現状を学ぶ。国際社会から見た各国の水準，社会経済，文化，宗教，価値観，生活習慣を理解し，地域資源を把握し，健康政策を概観する。対象国についての医療専門職に対する社会ニーズを予測し，国際医療人として求められる知識と技術を検討する。履修学生は，国際医療に関する集中講義を受け，少人数チームでの演習を通して課題を探求し，解決策を探る実践力を養い，相互支援に基づく国際協力の姿勢を育む。

③テーマＣ：ストレスと健康

健康と病気に密接に関連する重要な要素であるストレスについて学ぶ。精神・肉体的，急性・慢性，細胞ストレスなど生体が受けるストレスの背景と本態を理解し，ストレスの概念を的確に把握するとともに，ストレスに対する生体反応の定量化，可視化の医療における意義を学ぶ。どのような事象が『ストレス』と感じるかを考え，ストレスが人体にどのような影響を与えているかを可視化する。さらに，ストレス軽減のための方法について多方面から考え学ぶ。この演習を通じて，将来，看護師・放射線技師・臨床検査技師になった時に患者の精神・肉体的な生体情報を身近に共有でき，また，患者のストレスを低減する適切な対応方法を学ぶ。

④テーマＤ：臨床現場への対応力（子どもの入院環境）

臨床における課題探求力，問題解決に向けた実践力を身につけ，看護師（助産師，保健師），診療放射線技師，臨床検査技師がそれぞれの立場で協働して医療を行う素地を養うことを目標とする。子どもの入院を例に，子どもと家族の権利を尊重し，質の高いケアを行うために必要な，子どもの発達段階に応じた判断能力や自律性，親もしくは家族の子どもの捉え方や代理決定能力，そして，子どもにとっての最善を見極めることができる医療従事者の能力について学ぶ。子どものよりよい入院環境を提供できる医療従事者としての素地を育成するために，文献調査，フィールドワーク，施設見学，子どもの入院環境に関わる聞き取り調査などを行いながら，子どもと家族が直面している課題を明らかにし，それぞれの立場から質の高い医療を提供するための提言を行う。

4. 取組実施組織と活動状況

4.1. GP 推進室

取組の２つの教育プロジェクトを円滑に進めるため，学科長（取組責任者）の下に組織的教育プログラム推進室（GP 推進室）を設置した。GP 推進室は保健学科学務委員会と協力して各教育プロジェクトを具体化し，各専攻や学内外の関連組織との調整をはじめ，取組の企画，運営などプロジェクト実施に関する諸活動の中核を担う組織である。（図２）

平成22年度は，学科内教育組織である各専攻や外部協力者へ協力要請や保健学科学務委員会との協議を通じて学科全体として取組む基盤づくりを行った。また，「My confident lecture (保健学総合)」の平成23年度実施，「Our project study (保健学総合演習)」の平成24年度開講に向けた準備のため，毎月１回の定期会合に加えて勉強会を実施し，計画具体化の作業を行ってきた。とくに，「保健学総合演習」では，推進室教員が企画教員となって，テーマの選定と，授業実施のための調査，検討を行ってきた。

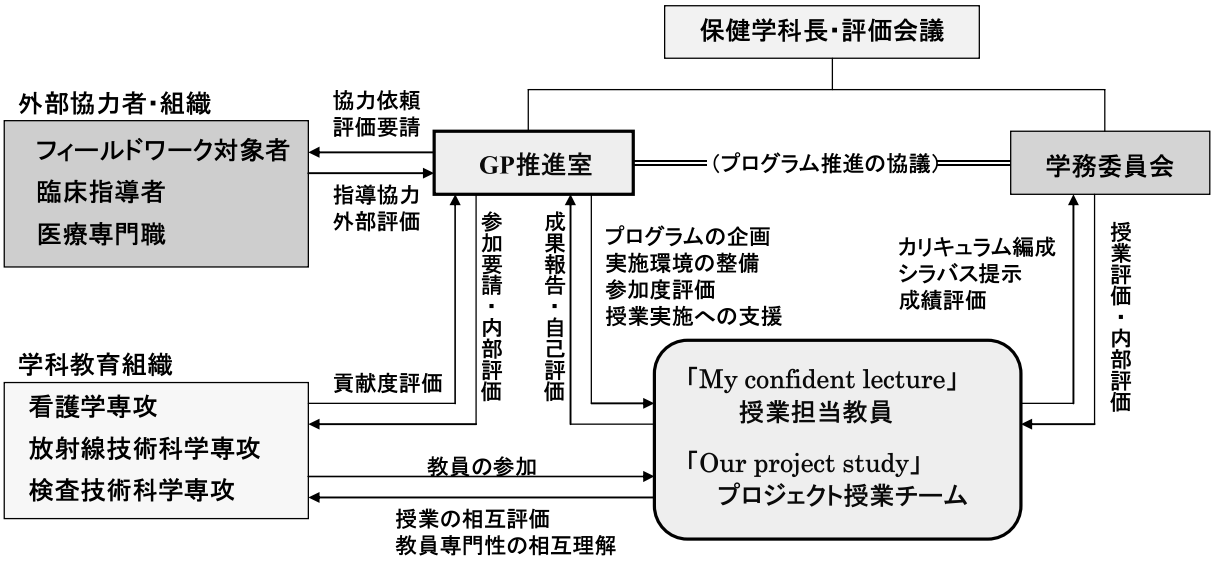

図２．取組の実施体制と役割

今年度の取組の成果については，新潟大学GP中間報告会（平成22年11月30日）および新潟大学GP報告会（平成23年3月18日）への報告を行った。また，保健学科内への取組の周知と活動報告のため，新潟大学GPに関する保健学研究科との合同フォーラム（平成23年3月8日）を開催した。

4.2. 教育環境の整備

GP推進室の発足に伴い，保健学科内の一室にGP推進の活動拠点となる教育活動支援室が設置された。教育活動支援室では，新潟大学GPに関する保健学科および保健学研究科の教育活動に必要な資料や教材を収集し，教職員がいつでも閲覧できるように開示している。

また，GP推進室の活動の他，セミナーや会議，学生の教育相談などにも利用できるようパーティション等を用いた配置が工夫されている。

平成23年度から開講する「保健学総合」，24年度からの開講を計画している「保健学総合演習」をはじめ，種々の教育活動に活用するため，以下の教育器材や文献・資料を整備した。主な教育器材として，パーティションボード，電子黒板，大型プリンター，書架および発表会用機材を整備した。書籍・文献・資料としては，ストレス大事典を購入するとともに，作成教材，講義資料を電子ファイルとして保存するためのソフトウエア等を用意した。

4.3.「新潟大学GP」保健学研究科・保健学科合同フォーラム

平成22年度の取組の成果を保健学科内で報告し，取組に対する意見を求めるため，平成23年3月8日「新潟大学GP」保健学研究科・保健学科合同フォーラムを開催した（教職員約40名が参加）。フォーラムでは，保健学科と保健学研究科の「新潟大学GP」取組紹介のほか，新潟大学医歯学総合病院が実施している文部科学省GP看護職キャリアシステム構築プラン「‘気づく’を育て伸ばす臨床キャリア開発」の紹介が行われ，保健学教育・研究についての活発な議論が行われた。

参加者に対するアンケートからは，回答者の95%が保健学科の取組に関心を示し，取組について「積極的に推進すべきである」42%，「推進してもよい」54%，「推進の必要はない」０%，「無回答」４%と，取組推進に肯定的な回答が多数であった。

5. 取組の達成度と課題

5.1. 平成 22 年度の達成度

平成22年度は初年度として，①２つの授業プロジェクトの具体化に向けた準備，②取組を軌道に乗せるための環境整備が活動の中心となった。「My confident lecture」は「保健学総合」という科目名で，平成23年度第２期の開講が決まっており，その担当教員も選定されている。「Our project study」についても学生が自主的

に研究するテーマがと授業の中心となる企画教員が選定され，平成24年度開講に向けた準備が進んでいる。したがって，取組の平成22年度の目標は，概ね達成できたと考えている。

5.2. 平成 23 年度以降の取組に向けた課題

平成23年度の取組における主な課題を以下に示す。これらの課題について，具体的な実践を通して本授業プロジェクトを展開していく。

①授業科目の具体化

・第2セメスタにおいて「保健学総合（My confident lecture）」を実施するため，個々の授業の講義資料に加えて，授業方針や受講前の準備，さらに深く学ぶための手引きなどを記載した「授業ガイド」を配布し，学習効果を高める工夫を行う。

・成績評価，授業評価など23年度計画に沿って評価を行う。授業を実施した上での新たな課題を精査する。

・夏期休暇期間などにおいて，「保健学総合演習（Our project study）」のモデル授業を行い，24年度開講に向けた具体的準備とテキスト・教材の作成を行う。

②取組によって実施する授業の教育課程における整備

・取組による新規科目「保健学総合」の実施に伴い，他の専門基礎科目との関係を検討する。また，24年度からの必修化に向けた準備作業を進める。

・初年次教育，学部専門教育，大学院教育という繋がりを視野に，この取組による２つの新規開講科目の教育課程体系における位置づけを明示する。

③授業評価と授業改善の可視化

・授業評価が授業改善に活かされる過程や取組の評価を活かす過程を可視化する。

④外部機関との交流，国際交流

・「Our project study」における臨床対応力の形成，チーム医療等のテーマにおいては，学外実習病院の臨床教授等と連携協力する体制を構築する。

・国際保健医療については，交流協定をもつスリランカ・ペラデニア大学との協力を踏まえて，教育内容の充実を図る。

2011 年 5 月 9 日受理